

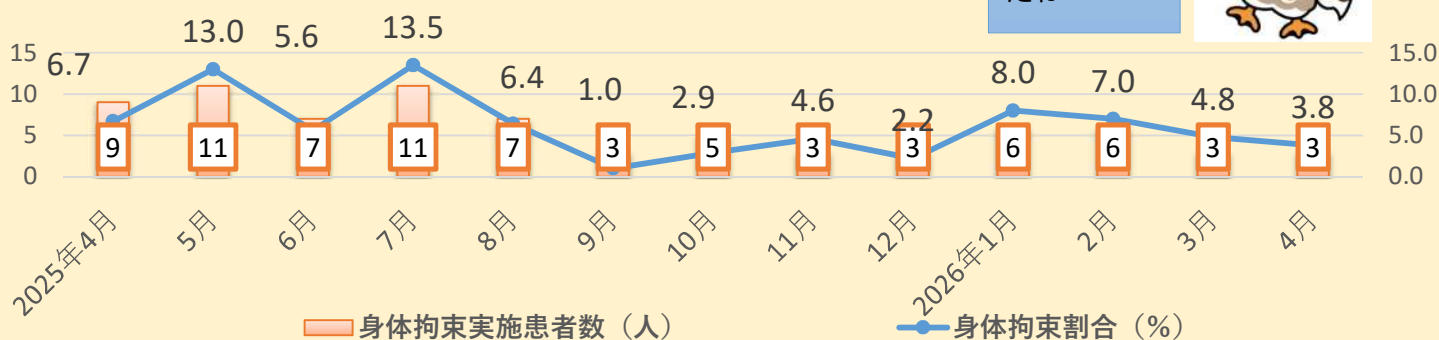
ほとく Vol. 1 (身体拘束最小化チーム通信)

2026年5月27日発行

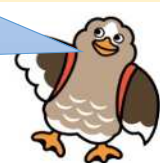
- ・当院では、患者さんの尊厳と人権を最優先とし、身体拘束の最小化に組織として取り組んでいます。
- ・身体拘束は原則として行わない医療行為と位置づけ、やむを得ない場合を除き実施しません。

★身体拘束に関する実績値の推移★

身体拘束実施人数と身体拘束割合 (%)



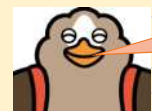
1月、2月に比べて最近
は減少傾向だね



身体拘束解除割合 (%)



解除割合は、高い方がいいよね
4月は3人のうち3人全員解除できました



★身体拘束をしないための工夫

～転落が心配な患者さんへの対応例～

ベッドを最も低くして壁側に寄せ、転落してもけがをしないように床に衝撃を和らげるマットを敷いています。危険な行動を察知し転ぶ前に看護師が訪室できるように、患者さんの動きに合わせてセンサーを使っています。患者さんの転びやすさに合わせて、医師、看護師、リハビリスタッフなどの多職種で拘束せず転落を防止する方法を検討しています。

